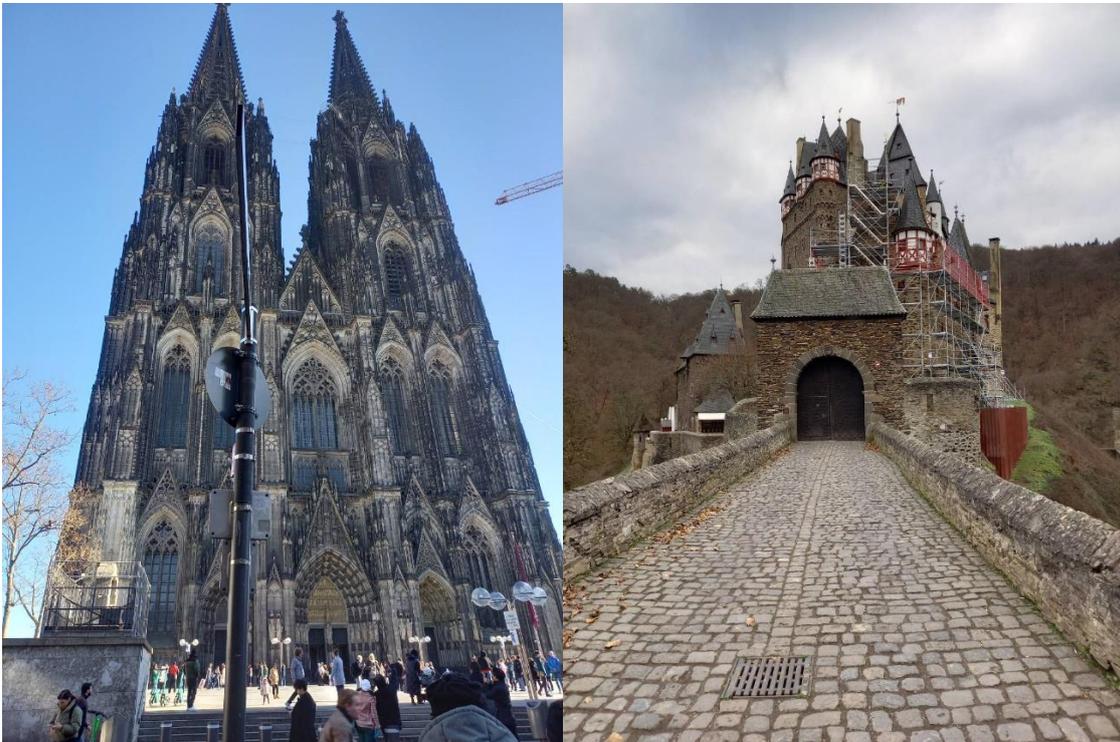


### 第3回留学レポート

法文学部社会文化学科 3年 新田欧介

#### ○最近の暮らしと所感

12月、1月と厳しい寒さが続いたドイツもだんだんと暖かくなり、春の訪れを草木の様子の変化から感じる毎日です。前回のレポートに書いたような帰国直後や年末年始に感じていた寂しさもすっかり和らぎ、5か月経ってやっと地に足を付けて生活を送ることができているなど実感しています。私が受けていた留学生用の授業は試験も含め2月上旬で終了しました。週2回のペースで受講していた2つのドイツ語のコースは試験を受けて合格することができ、それ以外に受講していた Japanese Geschichte (日本史) のコースにも合格することができました。担当の日本学の先生が日本人留学生2人を対象に特別にドイツ語で口頭試問を実施してくださり、お優しかったのも大いに関係していますが…。何はともあれ、留学中に英語や日本語以外を用いて純粋な語学科目以外の試験に受かったことは自分の中で大きな自信になりました。最近はドイツ語を話すことにも抵抗が減り、自分の知っている表現を用いてとにかく伝える、分からない表現は調べたり友人に聞いたりして使えるように頑張っています。自分の成長を少しずつでも感じることができ、それを実践できる期間を半年ではなく、1年にして正解だったなと思います。今は支えてくれる人たちのお陰でとにかく毎日が楽しいです。



左) ケルン大聖堂

右) 友人とドライブの一環で行ったエルトツ城

## ○アムステルダム、ブリュッセル、旅行

夏学期が始まるまでの約 2 か月間は日本と同様に春休みなので、ヨーロッパ各地を旅行する計画を立ててそれを実行している最中です。2月の試験が終わってから最初に行ったのはアムステルダムとブリュッセルです。ヨーロッパで適用されているシェンゲン協定の国家間であれば出入国審査がないので、比較的容易に旅行することができるのは便利でいいことだと思います。もちろん私の見た目は完全にアジア人なので車掌さんや現地の警察からパスポートの確認をされることもしばしばありますが、今のところ大きなトラブルなく過ごせています。

アムステルダムは電車の乗り換えをするケルンでお昼ご飯を食べてから 3 時間ほどで行けたので、それほど疲れることなく移動することができました。ドイツの鉄道が大きな遅延なく動いてくれたのはなかなかの奇跡でしたね。電車の車窓から眺めたオランダの低地の風景はどこまでも長閑で、自然と心が穏やかになったのを今でも覚えています。

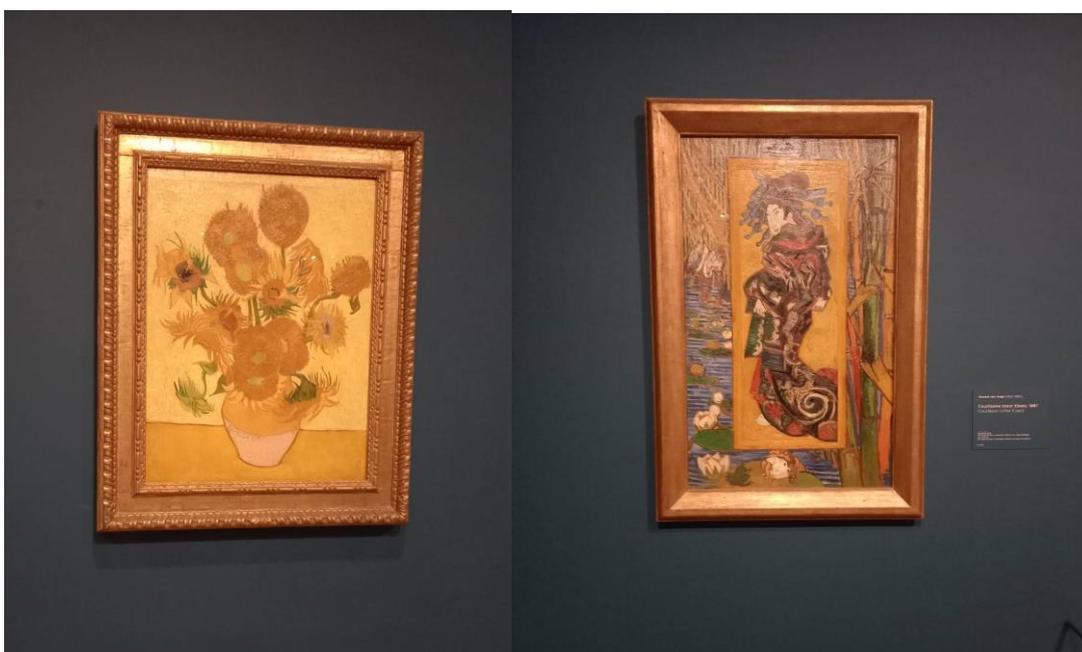
多くの方がアムステルダムに着いて最初に気づくのはその独特な町の匂いです。一緒に旅行した友人はすぐに気づき、私もぼんやりと感じたのですが、それが初めて嗅いだ大麻の匂いでした。オランダでは大麻が合法化されていることを知らなかったので私にとっては衝撃的だったのですが、あとで気になって調べてみると比較的軽めのドラッグである大麻を国が管理することによってハードドラッグの流通や闇ルートの拡大を防ぐ目的があるようです。なんとも歪な構造だと感じてしまいました。また、アムステルダム中央駅周辺は大麻以外にも少し危ないお店も多く、夜出歩くときは注意が必要でした。

肝心の観光は、主に博物館を中心にゆったりと回ってきました。世界的な名画を所蔵しているアムステルダム国立博物館はもちろんのこと、ファンゴッホ美術館とオランダ海洋博物館にも訪れて文化的な教養を深めてきました。高校や大学で学んだ世界史や歴史学、英語などの知識が十分に生きた一方で、博物館 1 つが巨大なあまり全ての作品をじっくりと見て回れなかったのは残念でした。ただ、実際に見たレンブラントの『夜警』は本当に圧巻で、教科書で見たことがある巨大な名画を前に多くの人々が列をなして見入っていました。留学に来てよかったと心から思える瞬間の一つでしたね。

3日目からはブリュッセルへと移動し、広場全体が世界遺産に登録されているグランプラズやその付近の観光スポットを巡ってきました。軽く回った中で印象に残っているのはヨーロッパの伝統的で重厚な建築と日本の都市部に似た現代的な風景がバランスよく調和していたところです。私が宿泊したホテルの周辺は坂道と高層ビルが多く、昔訪れた広島市街の風景が自然と思い浮かびました。路面電車も地下鉄も通っていて、確かにヨーロッパの都会にいるのになんだか懐かしい感情が呼び覚まされたのはとても不思議でした。物価はドイツよりもやや高いと感じましたがレストランで食べた料理はどれも美味しく、なかんずく本場のベルギーワッフルが一番思い出に残りました。あれ以上に上等なワッフルはこれからの人生で見つけるのが困難と言っても過言ではないと思います。また、ベルギーはサッカーの強豪国の一つということもあり、どのお土産屋さんに行ってもベルギー代表のユニ

フォームが売られていました。店によってバリエーションは異なりましたが、ケヴィン・デ・ブライネやロメル・ルカク、エデン・アザールといったスター選手のユニフォームが売れ筋のようでした。

春休みの残り 1 か月間でトリアから見て東側の国々や地域を見て回る予定です。ドイツ語が通じないことはあっても、大体の地域では英語は通じるのでなんとかなるだろうと思って旅行してきます。こういったいわゆる物事を楽観的に捉える精神も留学生活で得られた贈り物かもしれませんね。お財布とよく相談し、安全に気をつけながら残りの留学生生活を過ごしていきます。





グランプラス



アムステルダムの朝の風景



左) ベルギーワッフル



右) EU 本部